

## 令和5年度大学入学者選抜実施要項見直しイメージ

令和4年度実施要項	見直し案
<p>第13 その他注意事項</p> <p>4 入学者選抜の公平性・公正性の確保</p> <p>(3) 受験者の不正行為を未然に防止するため、受験者の座席の配置など試験室の設定の際の配慮、不正行為の内容及び罰則の周知、受験者の所持品の確認、試験室内の巡視を十分に行う ことなどに努める。</p>	<p>第13 その他注意事項</p> <p>4 入学者選抜の公平性・公正性の確保</p> <p>(3) 受験者の不正行為を防止するため、<u>次のことに取り組むこと。</u></p> <p>①不正行為に該当する行為及び罰則について、<u>事前に整理をし、その内容を募集要項等において周知すること。</u></p> <p><u>この他、各大学の判断により、例えば、当該大学の次年度入学者選抜の出願を認めないこと(P)や、不正行為については、警察に被害届を提出する場合があることを周知することも考えられること。</u></p> <p>②受験者の所持品について、<u>入試方法や受験者数など、大学の実情に応じて、試験場に持ち込めないもの、試験時間中に使用できないもの又は身に付けることができないもの、大学が持ち込みや使用を禁止しているものを試験時間中に発見した場合の取扱い(不正行為として扱われる等)を募集要項等で明示しておくこと。</u></p> <p><u>また、試験時間中に使用することを認めていない通信機器の試験場への持ち込みを認める場合には、試験開始前に電源を確実に切らせるとともに、その後の扱い(監督者が確認できる机上に置いておく、鞆に収納させる等)についても説明を徹底すること。</u></p> <p>③監督者が巡視を円滑に行うことができるよう、<u>受験者の座席の配置など試験室の設定の工夫を行うとともに、試験時間中は、静謐な環境保持に十分に留意しながら、試験室内の巡視を十分に行うこと。その際、巡視時に注意を要する観点(手の位置、受験生の目線等)を踏まえ、監督者等に十分周知しておくこと。</u></p> <p><u>また、入試方法や受験者数など、大学の実情に応じて必要な監督者や巡視を補助する人員を確保すること。</u></p>

5～7 (略)

8 災害等の不測の事態への対応

各大学は、入学志願者の進学機会を確保する観点から、自然災害や人為災害等により所定の日程による試験実施が困難となる等の不測の事態に適切に対応できるよう、入学志願者への連絡方法や問い合わせ窓口の設置、関係機関との連携・協力体制の構築、相当数の者が当日に受験できなかった場合の対応等について、十分な検討・準備を行う。

(同左)

8 災害等の不測の事態への対応

各大学は、入学志願者の進学機会を確保する観点から、自然災害や人為災害等により所定の日程による試験実施が困難となる等の不測の事態に適切に対応できるよう、入学志願者への連絡方法や問い合わせ窓口の設置、関係機関との連携・協力体制の構築、相当数の者が当日に受験できなかった場合の対応等について、十分な検討・準備を行う。

特に、受験者が安心して受験に臨めるよう、各大学は次のことに取り組むこと。

- (1) 試験実施当日の安全対策について、必要に応じて警察や受験者が利用する公共交通機関等と連携して対応すること。
- (2) 試験実施日には、入試方法や受験者数など大学の実情に応じて、教職員の活用も含め、必要な警備要員を確保するとともに、試験場内の十分な巡回に努めること。
- (3) 試験実施当日の受験者の安全について、例えば、連絡窓口を設置すること等により、受験者が大学に速やかに相談できるような体制を整えておくこと。
- (4) 自然災害や人為災害等により、受験することができなかった者がいる場合には、当該受験者の受験機会の確保等に配慮すること。
- (5) 警察や消防等の協力の下、警備体制や救助要請等に関する危機事象発生時のマニュアル等を整備し、定期的に見直すこと。